

会社OS化 はじめの一步チェックリスト

AI導入は、ツール選びから始めても会社の流れは変わりません。この資料は、顧客・案件・契約・納品・請求・タスク・KPIの中から、最初にOS化すべきCore Loopを決めるためのチェックリストです。

1. 最初に選ぶべきCore Loopの4条件

1 頻度が高い

毎日または毎週発生している業務。回数が多いほど、会社OS化した時の変化が見えやすくなります。

2 手作業が多い

転記、確認、分類、要約、下書き、承認待ちなど、人が同じ作業を繰り返している業務。

3 ルール化しやすい

判断基準、入力項目、出力形式がある程度決まっている業務。AIに丸投げせず、Actionとして組み込めます。

4 成果が見える

時間削減、確認漏れ減少、売上・納品・回収・KPIへの影響など、1か月で変化を確認できる業務。

2. 候補になりやすいCore Loop

- 問い合わせから案件化、次アクションまでの流れ
- 見積、提案、納品物生成、品質チェックの流れ
- 日報、現場メモ、朝レポート、遅延検知の流れ
- 顧客情報、案件ステータス、担当者、期限の整理
- 請求前チェック、入金確認、社内リマインド、KPI化

3. 最初は避けたい業務

- 責任者が決まっていない業務
- 入力データがまったく残っていない業務
- 個人情報、医療情報、機密情報の扱いが曖昧な業務
- 成果の判断基準がなく、現場の合意もない業務

4. Value Sprintの進め方

Week 1: Core Loopを見える化

対象業務、業務対象、状態、入力、出力、人の確認ポイントを書き出します。

Week 2: OSの一部を試作

AI下書き、要約、分類、チェックリスト、Action Queueのどれかに絞って試します。

Week 3: 現場で使う

担当者が実際の業務で使い、使いづらい入力や表現を直します。

Week 4: 継続判断

時間、漏れ、属人化、現場負担、KPIがどう変わったかを見て、次のCore Loopへ広げます。

AIに入力する内容には、個人情報、顧客の機密情報、医療情報、契約上非公開の情報を含めない運用から始めてください。

御社なら、どのCore Loopから始めるべきか。

Alphabaseの会社OS診断では、顧客、案件、請求、タスク、KPIのどこに分断があるかを確認できます。

<https://alpha-base.jp/diagnosis>